

令和2年度 聖ドミニコ学院中学・高校入学式式辞

主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩（わずら）うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知（じんち）を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。

（新約聖書から使徒パウロのフィリピの教会への手紙 4章4節～7節）

ただいま入学を許可いたしました皆さま、本学院を選ばれ、ここに集っている姿は輝きにみちています。私たち教職員はもとより、在校生一同は皆さまをお迎えできた喜びにあふれています。本学院は800有余年もの間、伝え継がれてきた聖ドミニコ修道会創立者、聖ドミニコの教えである「真理」をモットーとして掲げ、「真理を求め、自由に生きる人」の育成を目標としています。幼稚園、小学校、中学校、高校とその教えは一貫して受けつがれ、今日に至っています。学内には、あいさつと笑顔がいつも交わされ、心が清らかになる日々を送ることができます。今日から皆さんは、自己本位な人間の弱さから解放された利他の精神を学び、社会に貢献する人間に成長するよう育まれていきます。

男女共学一期生である中学生の皆さまは、みずからが開拓者となり、心を耕し、体力・気力・知力を日々の生活で植えつけ、将来の土台作りをしていきます。

高校生の皆さま、高校時代は脱皮する時とかつての教え子が言いました。卒業するとき、「自分変わったなあ」と成長を実感できるよう、真善美を追求し、愛と知の豊かな稔りを収穫していきます。

保護者の皆さま、教職員の愛校心は他に誇れるところです。先生方は、生徒一人ひとりの個性を大切にし、ともに歩んでいきます。本学院の教育活動に積極的に参加していただき、最強の応援団としてご支援たまわりますようお願い申し上げます。

結びにあたり、世界の黒澤と称された映画監督でいまは亡き、黒澤明氏の言葉をはなむけとして贈ります。

「自分が本当に好きなことを見つけてください。見つかったら、その大切なことのために努力しなさい。君たちは、努力したい何かを持っているはずだ。きっと、それは君たちの心のこもった立派な仕事になるでしょう。」

夢をかたちにするため、この言葉を胸に刻み込み、あせらず、やすまず、あきらめず、一日一日の努力を積み重ねていき、進む行く手に一生懸命の花を咲かせましょう。

令和2年4月吉日

聖ドミニコ学院中学高等学校 校長 小笠原 朋之